園だより 12 月

「見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。
その名はインマヌエルと呼ばれる。」
マタイによる福音書 1 章 23 節

少しずつですが季節が秋から冬へと移ってきたように思います。それでも園庭の小春日和の暖かさは、子どもたちの伸び伸びとした活動に一役も二役も買っています。穏やかにときが流れる中、子どもたちの心と体は様々に動き、その成長を感じます。

今年のバザーは 4 年ぶりに地域の方々にもお入りいただき、久しぶりにお会いする方々との再会を喜び合う嬉しいときとなりました。教職員、保護者の方々、ワイズの方々、リーダーたち、そして子どもたちがひとつになって楽しんだバザー、皆さまのお力により良きひとときとなりましたこと心から感謝でした。また、年長組が手造り味噌を使い腕を振るって作ったスープを頂く、「おいしいおいもパーティー」が今年も開かれました。

毎年行われる季節の出来事ですが、成されるまでの子どもたちのその年年の決して同じではないその想いの様子に、神様からの賜物の輝きを感じます。園生活の一日は、幼稚園の年間の計画、学期の計画、月の計画、週の計画、子どもたちの学年それぞれの発達に沿った保育計画（願う成長）に基づき進められています。けれども、その日々は、保育者たちの計画に子どもたちをはめ込みながら進めるものでは無く、共に過ごす子どもたちの今の心持ちであったり、興味関心であったりを捉えながら、また、個々の心の動きに寄り添いつつ、「子どもたちの今」を大切に、よりよい環境を備え、共に心躍る活動を考え過ごしています。ですから、毎年、この時期にはこの時期の、幼稚園の様子が見て伺えますが、そこに流れる、そこで生まれる子どもたちから溢れる想いはどの年度も決して同じではないのです。11 月の半ばから待望礼拝を守り、神様がこの世に光として贈ってくださった、大切な大切な神様の赤ちゃんイエス様のお誕生を皆で喜び合うクリスマスを待ち望む日々を過ごしています。学年により、その子により日々の様子は微笑ましい限りです。そしてどの様子も神様の恵みに包まれていること、喜びです。今月、お家の方々とその嬉しい温かなときをご一緒に過ごせますこと本当に嬉しく思います。

園長　駿河　幸子